

NO. 1 「種なしぶどう」芽かき・新梢誘引講習会 資料

JA グリーン長野営農販売部営農指導課

生育状況 種無し巨峰		発 芽	展 葉	展葉 5枚目頃	展葉 8枚目頃	開花始 11枚目頃	満開 13枚目頃
生 育 ステージ	本 年	4/19	4/23	/	/	/	/
	令和6年	4/17	4/21			5/23	6/1
	令和5年	4/10	4/15			5/31	6/5
	自園						
栽 培 管 理		苗植付け	芽かき	新梢誘引	アグレプト 散布	房こき	GA 処理

他品種の生育目安（種なし巨峰基準）：ナガノパープル+2 日 シャインマスカット+6 日

◎今回の講習会での主な用語 本資料 線は特に重要ポイント！

用語	説明
芽かき	強いもしくは弱い新梢をかき取り（切除）し、平均的な新梢長に揃えること
主芽	主芽：1つの芽の内、最初に発芽する大きな芽
副芽	副芽：主芽の横から、主芽より遅れて発生する芽
展葉	葉が開いた状態（10円玉が乗る大きさ） <u>生育ステージの目安として利用</u> 。 平年の気候であれば展葉後 <u>3日で1枚展葉する</u> 。温かいと早く、寒いと遅れる。 展葉〇〇枚とは中庸な新梢のこと（平均）
生長点	<u>新梢先端や花穂先端</u> に存在し、樹の高いところにあるものほど伸長しやすい。 →低い 〃 伸長しづらい。
誘引	新梢を新梢誘引線・棚面に固定すること。伸びたものから随時行うこと。
稔枝	新梢の基部（2葉目と3葉目あたり）を捻じ曲げること
摘心	新梢先端の未展葉部分を摘み落とすこと。

I 種なしぶどうの好適樹相（重要） ～高品質（おいしい）ぶどうの生産のために～

表1 好適樹相の目安（種なし栽培は品種や目標房重により樹相が多少変わるので目安とする）

生育ステージで目指す樹相	好適樹相（新梢長）		
	開花始期	満開時 （新梢直径）	果粒軟化期以降の管理
・展葉7～8枚時50cm位 ・開花期80～100cm位 ・最終的に停止する樹勢※1	80～100cm ※早伸びしているものは <u>10枚目頃摘心</u> し遅い新梢へ養分を分ける。	<u>第一果房と第二果房間の</u> <u>新梢直径が9～11mm位</u>	8月下旬までに副梢の伸長が随時止まってくることが望ましい。※1 伸長する場合は随時摘心

※強樹勢（11mm～）は、生育不揃い、房型不良、開花不揃い、皮の強張り、食味（渋み・青臭い）、着色不良、裂果、副梢の旺盛化、突然の枯死、病気蔓延、その他等の影響が出る。

II 芽かきの目的 ～新梢の勢いを揃えて開花を揃えること～

開花期が揃うということは＝ジベレリン処理が簡素化＝肥大・果実品質が揃う＝荷造りも楽になる。

- ・早めに新梢の数を制限し、貯蔵養分を有効利用する。
→早い時期に一度で全て行くと、逆に新梢がばらつくので、数回に分けて実施する。
- ・芽かきの優先順位は ①芽の向き（方向性）＞②基部 が基本的な考えである。
- ・二芽剪定は頂芽（先端側）が伸び、基部側の芽は伸びづらくなるため、早めに芽かきをして基部側の芽の生育を促すことが重要。
- ・芽かきだけでは生育は揃いづらいため適期の誘引作業も重要となる

1 短梢剪定樹の芽かき

(1) 時期

展葉2枚～3枚目頃(新梢の強弱と房持ち)から。

(2) 方法

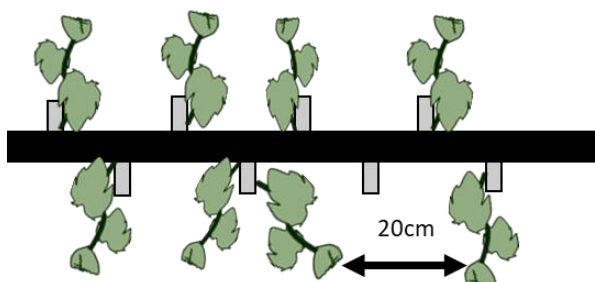
- ①平均的な生育の新梢長に合わせる。
- ②強い新梢を芽かきし、残った枝に養分を促す。
- ③副芽の除去(ハサミ)も併せて行う。かき取ると新梢の基部に傷が付き誘引時折れやすい。
- ④1芽座から複数の新梢が発生した場合は、基部側の新梢を残す。ただし弱い場合は、新梢を立てておき(5枚頃摘心)、次年度の結果母枝としても良い。

(3) 注意事項

- ①凍霜害の心配がある場合は4～5枚頃まで遅らせても良いが凍霜害対策もあわせて行う。
2芽剪定(図1)をした場合は、1芽目は弱く、基底芽は発芽不良となる場合があるため早めに2芽目を落とす。
- ②目標本数は20cmに1新梢。誘引時に折れる心配がある場合は目標本数よりやや多めに残す。
- ③欠損部がある場合は、1芽座から2新梢残して新梢数を確保する(着房はどちらか1房)。
- ④前年、「シャインマスカット」で花穂異常や未熟粒混入症などの生理障害の症状が出た場合は芽かき、誘引は遅らせる。房の形状がはっきりしてから行う。



図1. 2芽剪定した結果母枝の特徴

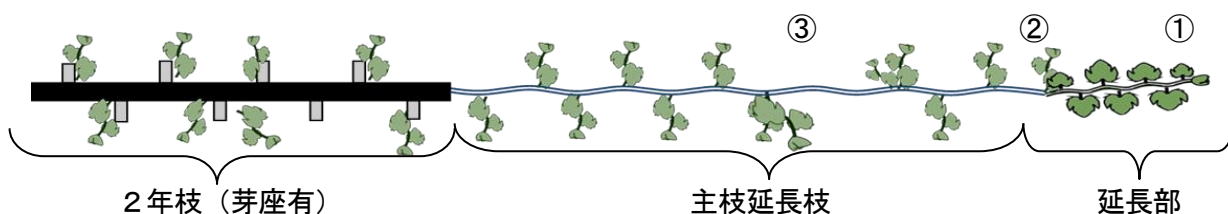


片側20cm毎程度に新梢が欲しい。
誘引で折れやすいので、芽かき時は目標本数より多め(2割)に残しておく。

図2. 新梢欠損時の対応

2 短梢剪定樹の主枝延長枝部分の管理

- (1) 主枝延長枝(1年枝)の副芽は、発芽しない芽の所を埋めるために利用することもある。
新梢数が確保できたら基部からハサミで切る



- ①本年延長する枝は先端の芽にこだわらず誘引しやすい芽を使用。
- ②主枝延長枝先端2芽の副芽は、誘引後安定し次第切除する。
- ③主枝延長枝(長梢部分)の中間は発芽しづらく枝が欠損する場合がある。
原因は主枝延長枝の強さに対し芽数が多い場合に発生。

図3. 主枝延長枝の対応

- (2) 主枝延長枝上の新梢には着房させないことが望ましい。

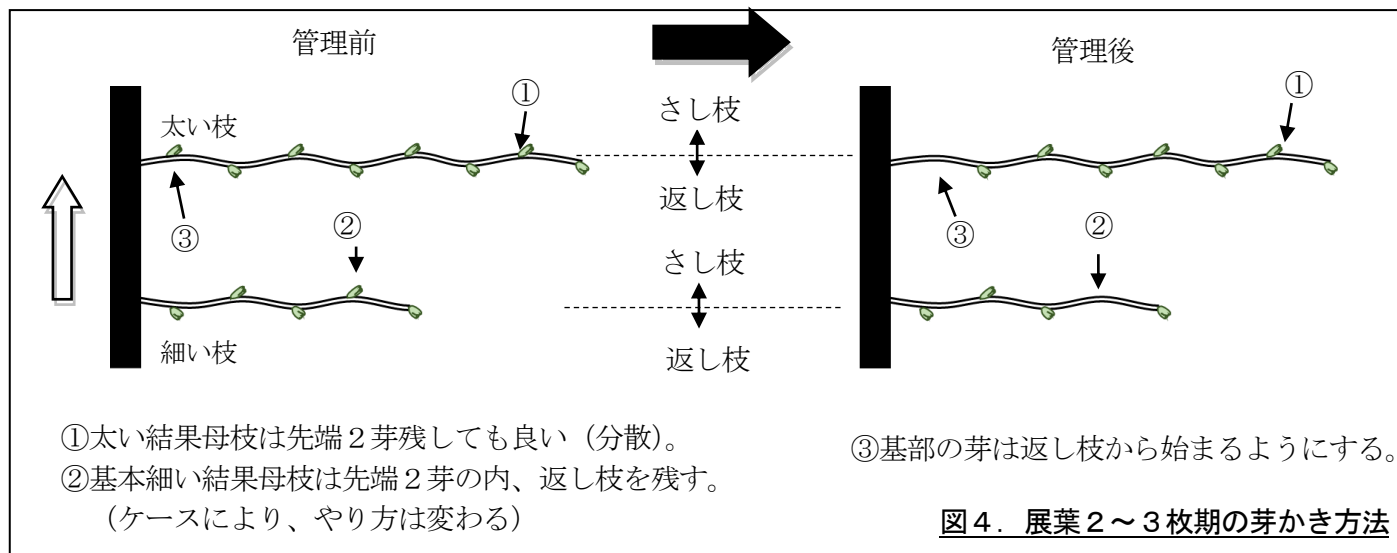
→空枝とし芽座を作ることが優先。着房させるのは翌年！！

- ・帯状や多股の花穂の場合が多く、房整形に時間を要する。最終的な品質が悪い(小粒小房)
 - ・ジベレリン処理をすると、早くに枝が太りやすい。
 - ・翌年の花芽形成が不安定になる。
- ※どうしても着果させたい場合は味見程度までとする。

3 中梢せん定樹の芽かき（短梢仕立ての方も簡単に覚えておきましょう）

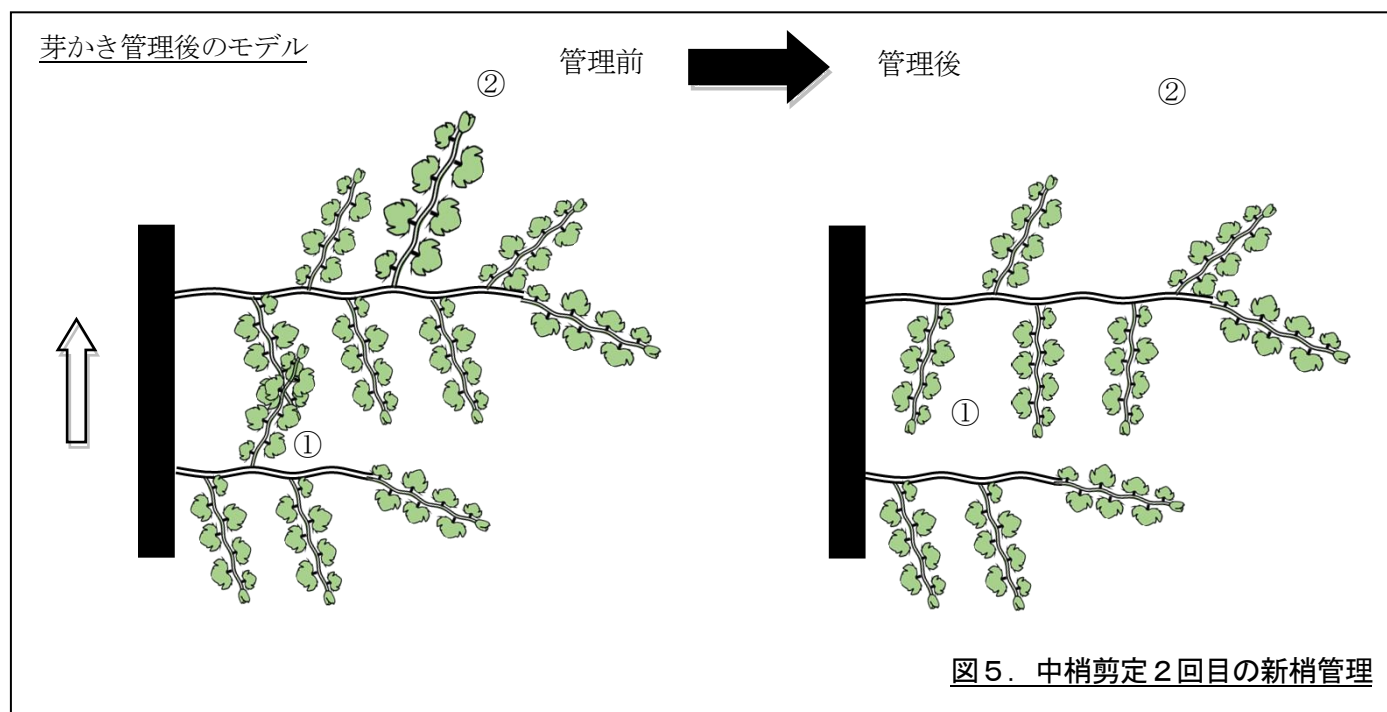
（1）1回目の目的（結果母枝先端の芽が展葉2～3枚頃）

- ①結果母枝（7～8芽以上）は枝先端側の1～2芽が出て中間の芽の生育が悪くなる。
→先端の1芽目か2芽目をかき、3芽以降の生育を促す
- ②結果母枝の主幹から外向きの芽「さし枝」は強くなりやすい。
主幹側の内向きの芽「返し枝」は落ち着きやすい。



（2）2回目の目的（樹勢が弱ければ展葉5～6枚頃、樹勢が強ければ展葉7～8枚以降）

- ・混み合った場合は、返し枝を優先して残し、さし枝は落とす（図5. ①）
- ・花穂の素質、新梢の強弱が分かり次第、強い枝は落とし（図5. ②）中庸な新梢を残す。
- ・残した中で強めの新梢は、随時誘引作業を行う。



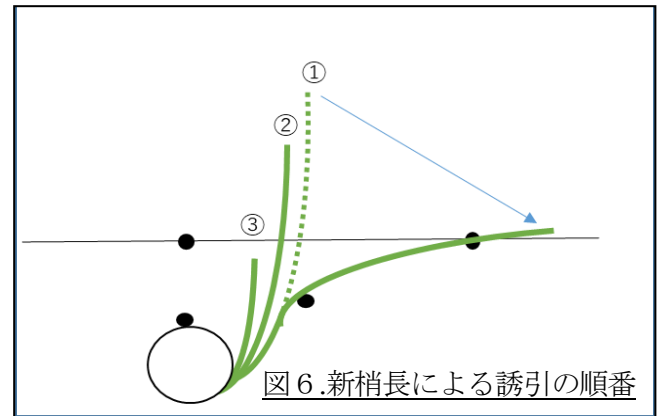
（3）2回目以降～開花期頃まで

- 棚面が暗くなる場合は、随時芽かきを行う。最終新梢本数の目安は50～60本/10㎡となるが樹勢に応じて増減させること。
→開花期に新梢同士が重ならない程度が良い。
- ※昨年の棚面の明るさが暗かった場合は減らすなどし、常にイメージを持って管理すること。

4 新梢の誘引（新梢誘引線・棚面付け）～芽かきで揃わなかった新梢を誘引で揃える～

（１）誘引時期

- ① 新梢長が40～50cm位（展葉6枚期頃）
- ② （図6）強く伸びている新梢①から随時誘引を始める。伸びの弱い新梢②③は誘引せず上げておき成長を促す。
- ③ 遅く開始し一回で誘引を行うと新梢の生育差は縮まらない。新梢が大きくなると硬くなり折れやすくなる。
- ④ 新梢の房が横向きに誘引できると理想的。



（２）稔枝

風でかけやすい園地や直立し誘引しにくい新梢は、2葉目と3葉目の間を稔枝する。

（３）時間帯（目安）

稔枝：午前。新梢が硬いため、作業効率が良い。

誘引：午後。晴天時は「しなっと」し折れにくい。

（４）棚への固定

テープナー等で新梢を棚に固定する場合は、新梢葉の5枚目（第二花穂）と6枚目の間を行うとその後の房切り作業やジベレリン処理作業などがしやすくなる。

（５）強めの新梢の扱い

強めの新梢から早めに誘引、摘心（10枚目）を行い、他の立っている新梢に養分を分けて揃えるようにする。

（６）弱めの新梢の扱い

誘引は、しっかりと伸長してから行うこと。

弱い新梢は花穂に栄養が引っ張られるため、早くに花穂を切除し空枝にすることが重要。房切時まで放っておくと登熟不良となり翌年欠損する場合がある。

Ⅲ 今後の管理工程について

・無核化処理「アグレプト液剤」の適期散布！！

昨年は、生育の前進により散布遅れが目立った。市場・贈答より種子混入のクレームが多かった。

令和7年4月1日現在（詳細は情報参照）

アグレプト液剤（種子形成阻害）：1000倍：満開予定日の14日前～開花始期まで

登録期間の内処理が早いほど無種子化の効果が高く、遅れるほど種子の混入率が高まる。

参考までに

満開＝13枚目頃 14日前散布は4～5枚前（4枚～5枚×3日＝12～15日）

→展葉8～9枚目が散布目安となる。（8～9枚目防除後、翌日散布が覚えやすい）

・気温により生育が前後するため、気象予報をよく確認して各種管理作業が遅れないように努めること。

・生育ステージ（各品種の発芽・展葉〇〇枚・開花満開）を作業日誌に記入し、次年度以降の参考データとして保管すること。